

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

2008年度 文化系公認団体祝賀会 および表彰式

3月17日(火)、寒梅館ハーディーホールで「2008年度文化系公認団体祝賀会および表彰式」が開催された。この祝賀会は、文化系クラブ・サークル公認団体で活躍してきた4年生の卒部を祝うもので、同時に年間を通じて目覚ましい活躍を見せた文化系クラブ・サークルへの表彰式も兼ねている。全国規模の大会等でトップレベルの活躍をみせた団体、社会貢献性の高い活動を行った団体、学生らしい創意工夫が見られた団体が対象となり、今回は以下の15団体が表彰された。

応援団の演舞による華やかな幕開けの後、西村卓学生支援センター所長によるお祝いの言葉があり、各団体への表彰式が行われた。今回大賞となった法学研究会



は、弁護士が少ない地域で無料の法律相談を行ったり、法律討論会に出場して高い成績を修めたことが評価された。優秀賞の国際居住研究会は国際ボランティアサークルで、中国・四川大地震における募金活動や海外で農村支援、貧困者支援活動を行ってきた。同じく優秀賞の機械研究会は、F1(フォーミュラカー)を製作し、全日本学生フォーミュラ大会に出場するなど精力的な活動を行ってきた。西村所長からそれぞれの団体に賞状と副賞が手渡されると、学生たちは喜びのコメントとともに、プレゼンテーションなどで活動内容を発表した。

式典終了後は、引き続き寒梅館で交流会が開催され、顧問や副顧問、学生支援センター担当者が参加し、各団体との交流懇談が行われた。

■学生支援センター所長大賞

法学研究会

■学生支援センター所長優秀賞

国際居住研究会、機械研究会

■学生支援センター所長優良賞

E.S.S.デイベートセクション、E.S.S.スピーチセクション、文学研究会、学生放送局、広告研究会

■学生支援センター所長地域貢献賞

書道部、茶道部

■学生支援センター所長奨励賞

漫画研究会、人力俤友会、学生混声合唱団C.C.D.、グリーククラブ、学生テレビ局

2008年度 同志社ローム記念館大賞発表会

3月23日(月)、同志社ローム記念館大賞発表会「同志社Rの献身」を開催した。

ローム記念館では、毎年、情報メディアやデジタルコンテンツに関連したテーマの「プロジェクト」が展開されている。2008年度は学生からのテーマ提案による公募プロジェクトが3件、企業・団体からのテーマ提案による産学連携の誘致プロジェクトが7件採択され、コアプロジェクト学生コア



スタッフを含め11件のプロジェクトが活動を展開した。発表会では、

3月7日(土)

に開催された最終成果報告会での報告や

日頃の活動成果をもとにローム記念館プロジェクト運営委員会にて審査し、最もすばらしいと評価されたプロジェクトを大賞として発表、顕彰している。プロジェクト活動の締めくくりにしてふさわしいイベントとなるよう、毎年学生コアスタッフがプロデュースするが、今回は、名探偵に扮したコアスタッフのメンバー

が1年を振り返りながら謎解きに挑戦、暗号を解いて大賞受賞プロジェクトを導き出すという趣向で進められた。

2008年度の大賞は、日頃実践して

いるメンバー育成の手法やロボットづくりのノウハウを生かし、こども向けのものづくり教室を成功させた『同志社レスキューロボットプロジェクト』『公募プロジェクト』が受賞。優秀賞には携帯メールを使ったユニークな京都観光情報サービスのシステムを開発した『メールで奏でる京都』『公募プロジェクト』と、デジタルペンを使ったアプリケーションの開発を行った『手書きでデジタルプロジェクト』（参加企業・株式会社シールズ、べんてる株式会社）が選ばれ、それぞれにトロフィー、賞状が授与された。

4月からは6期目となる2009年度プロジェクトがスタートしており、サポート体制を含め、課外の教育プログラムとしてますますの充実と発展が図られる。

(京田辺校地総務課)

経済学部新聞ゼミ 「日経STOCKリーグ」 審査委員特別賞受賞

3月14日(土)、第9回「日経STOCKリーグ」(主催・日本経済新聞社)の表彰式が東京丸ビルホールで行われ、経済学部の新聞三希代教授が指導する3年次のゼミ生で構成する2チームが審査委員特別賞を受賞した。今回の大会には全国の大学から865チームがエントリーし、5チームが表彰式に招かれ、そのうち2チーム9人が新聞ゼミの学生であった。

日経STOCKリーグは、投資シミュ



レーションを前提としたバーチャル株式学習コンテンツである。エントリーをした各チームは、各自の興味に基づき、個性豊かな投資テーマを設定し、ポートフォリオづくりやインターネットを活用したバーチャル株式の体験学習などを通じて、生きた経済に触れることが求められる。そして、自ら考え、学びながら、そこで得た成果をレポートとして提出するものである。今回受賞した2チームは、「京都市企業の可能性―古都に潜む底力―」「サイコロ分析―行動ファイナンスによる株価分析―」というレポートで、本学として初の栄冠を獲得した。

(経済学部)

キャンパスツアーガイドの 卒業記念 ―良心碑をめぐる旅―

本学では、在学生がガイドを務め高校生や一般の方に構内を案内するキャンパスツアーを実施している。3月、キャンパスツアーガイドを経験した4年次の学生らが、卒業記念に全国7カ所にある良心碑と創立者新島襄ゆかりの地を訪ねた。これま

でガイドを通して新島に関する知識を蓄積していたものの実際に訪れたことのない地、このメンバーで行く価値のある旅ということ、今回の旅が企画された。

島生誕の地である東京の神田へ。新島が生まれた安中藩江戸上屋敷跡(現在の神田一橋の学士会館付近)にある生誕地記念の碑を訪ねた。

今回この旅行を企画したのは、角谷卓哉さん、中村拓真さん、小野華奈子さん、橋本暁寛さん、小林景子さん、上田悠未さん、宮井章仁さん、田附拓也さん、今里舞さん、稲垣宏行さん、平岩佐知子さん、遠藤美佳さん、星翔太さん(卒業生)ら、キャンパスツアーガイドを務め、当日参加することができたメンバーたち。3月4日(水)―6日(金)にかけて、山梨・

晩晴草堂、神奈川・大磯、東京・神田、群馬・安中を訪ねた。

一行は青春18切符とレンタカーを利用して、まずは徳富蘇峰のゆかりの地である晩晴草堂を目指した。一泊した後には、新島終焉の地である大磯へ向かった。新島は大学設立のための募金運動の途中に倒れ、大磯の旅館で静養し、そのまま回復せずに亡くなっている。その百足屋旅館はすでに無くなっているものの跡地には碑が残っており、皆で新島を偲んだ。その後、新



新島家旧宅を見学



新島学園中学高等学校にて

る両校の皆さんから温かい歓迎を受けた。新島学園高校では、今春から同志社大学に進学する高校生との昼食会が準備されていた他、チャペルでパイプオルガンによる校歌や賛美歌の演奏を聞いた。

参加したメンバーは今回の旅を通じて、「新島学園の人たちと話す中で、やはり同

湯浅一族の「有田屋」を訪問、醤油が天然醸造されている土蔵や、湯浅治郎が開設した図書館で日本最古の私設図書館「便覧舎」址を訪ねた。その後「新島家旧宅」で、展示室や屋敷を見学した。またこの日には、新島学園中学高等

等学校と新島学園短期大学を訪問し、校長・学長を始めとする両校の皆さんから温かい歓迎を受けた。新島学園高校では、今春から同志社大学に進学する高校生との昼食会が準備されていた他、チャペルでパイプオルガンによる校歌や賛美歌の演奏を聞いた。

じ教えを受けてきた人は同じものを持っていると感じた。これから社会に出ても、同志社の卒業生とはそんなつながりを感じられるのでは」「大学院へ進学するのでも、キャンパスツアーガイドを続けて、メンバーの思いを後輩たちにも引き継いでいきたい」「大学に入学してキャンパスツアーガイドを務めることで違う学部の人々と知り合え、新島というひとりの人物を追うことでいろいろな人とのつながりを知った。刺激を受けた4年間だった」といった感想を寄せた。新島の志に触れ、その精神を受け継ぐ若人たちが生まれている。ぶどうの枝のごとく連なり、広く社会へ羽ばたいていってほしい。

(広報課)

同志社校友会米国西部支部と交流

3月3日(火)～21日(土)、米国ロサンゼルスで行われた研修プログラム(主催…同志社エンタープライズ)に参加した。この約3週間のプログラムは、英語研修とビジネス体験、OB交流会の3本柱で構成されている。私が今回、このプログラムに参加しようと思った理由は、将来についてまだ何も見通しを持っていなかったからだ。このプログラムを見つけたとき、以前ある方から「興味を持ったらずまず手を出せ」と言われたことを思い出し、一度は悩んだものの参加を決意した。日本でのインターンシップではなくアメリカでビジネス体験

をすることについては、英語を話せるようになりたいという思いや、英語を使った仕事にも興味があったからだ。

このプログラムの一環である「同志社校友会米国西部支部」との交流会では、川田薫会長をはじめとする卒業生の方々から、現在に至る経緯やどのようにして困難を



乗り越えられたかなど、いろいろなお話を聞くことができた。例えば川田会長は、一度は就職され、駐在としてアメリカで仕事をされるなど軌道にのるものの、会社側の都合で辞めざるをえなくなり、家業を継がれたり、夫婦で渡米し自ら起業されたりと、起伏の激しい人生を送られてきた。なかなかうまくいかないときにも、「家族を養わなければ」という使命のような想いで、必死で働いておられたという。川田会

長のこの言葉に、その人の能力や人間性だけが成功へのカギではなく、強い「気持ち」が人を成功に導くのだと感じた。他の卒業生の方々も、経緯は違っても、何かひとつ「譲れない想い」というものを持っておられるように感じた。

懇親会・ビジネス体験 ホームステイ、全てを経験したことで、「興味を持ったらず挑戦してみる」という信念を一生かけて持ち続けよう、と決意することができた。最後に、私たちのために会を開いてくださった現地の卒業生の方々、そしてこのプログラムを企画して私たちのお世話をしてくださった方々、本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(社会学部社会学科3年次生 武宮高明)

第35回Neesima Room企画展 同志社の表徴 ーエンブレムとデザインー

同志社神学校教授であった湯浅吉郎(半月)が考案した徽章案は、1893(明治26)年10月20日、正式に同志社徽章として制定されました。湯浅は神学校で旧約聖書を教え、古代語に詳しかったこともあり、アッシリア語の「ムツウ」という言葉(国や国土を意味する)をモチーフにして三角形を3つ並べた形をデザインしました。

同志社徽章を形成する均等な3つの三

角形は、それぞれが教育の三要素である知育、徳育、体育を表し、その三角形が織りなす調和自体がこれらの教育を完全な形で行うという意味を持つと解釈され、現在まで受け継がれています。

同志社徽章の誕生から今年で116年。その間、徽章は同志社諸学校の園児、児童、生徒、学生、卒業生、そして教職員をひとつにするアイデンティティの具象として愛されてきました。今回の展示では、多様に利用されてきた徽章を、同志社の歴史と重ね合わせながら展示しています。徽章に込められた様々な思いや意図を感じ取ってください。



【期間】4月1日(水)～7月31日(金)

【時間】10:00～17:00

(土、日曜日は16:00まで)

【会場】Neesima Room

(今出川校地 ハリス理化学館2階)

公開講演会

「視覚シンボルの意味とその理解」

井上智義 社会学部教授

【日時】6月20日(土) 13:00～15:00

【場所】至誠館3階会議室(今出川校地)

(同志社社史資料センター)

生涯続く「母校との絆」DOOネット

本学と卒業生とのつながりを強め、在学中と変わらぬ結びつきを広げていくために、4月から登録制の「DOOネット」(同志社大学卒業生ネットワーク)をインターネット上で本格的に展開しています。

このネットワークは、卒業生の皆さんに会員として登録をお願いし、会員の皆さんへ大学の動きや各種情報を発信するとともに、大学の教育・研究・社会活動にご協力・ご支援いただくことを通して、会員相互の交流を促すものです。あなたの精神に刻んだ「同志社大学」にご支援・ご協力をお願いします。

(校友・父母課)

DOOネット 検索 にてアクセスし、利用登録画面から登録してください。
(本学ホームページからもアクセス可能)

同志社大学の募金事業

本学では、建学の精神に基づく教育研究事業を将来にわたって維持発展させていくために、かねてからご父母、教職員はもとより広く社会全般に向けて募金のご協力をお願いしてきました。

昨年度は、教育研究活動を展開する施設設備の整備を目的とした「教育研究施設等整備募金」、経済的困窮に苦しむ学生を支える特定寄付奨学金制度の資金に充てる「奨学金資金募金」、次代を拓く情報教育プ

ロジックを支援する「同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金」など、数々の募金事業を行いました。これに対してご父母、卒業生、法人、教職員など多方面からご協力をいただき、集まった資金を活用して所期の事業を実施します。

これも皆さまの深いご理解の賜物と、厚く御礼申しあげます。2008年度の募金事業の実績について、次のとおりご報告します。

2008年度 募金事業実績報告書(2008年4月～2009年3月入金分)

募金事業	寄付件数および金額	使 途
教育研究施設等整備資金募金	在学生父母 383件 31,508,280円	2008年度に実施した知真館改修工事、今出川図書館整備工事およびアーモスト館改修工事を行うなど、施設整備資金として活用 ■建設事業の詳細は、学校法人同志社発行「事業報告書2008」(同志社大学2008年度の事業実績)に記載しています。
	卒業生、一般、法人 50件 6,023,000円	
	計 433件 37,531,280円	
奨学金資金募金	卒業生、一般、法人 90件 5,978,258円	2008年度に実施した特定寄付奨学金給付の資金として活用 給付件数34件、給付総額10,200千円 残額は2009年度の同奨学金資金として繰越
	教職員 57件 4,637,000円	
	計 147件 10,615,258円	
同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金	卒業生、一般、法人 7件 5,830,000円	2008年度に実施した同志社ローム記念館プロジェクト(教職員、学生、生徒と産・官・学・地域の連携によるプロジェクト)の支援資金として活用
	教職員 12件 263,500円	
	計 19件 6,093,500円	

なお、奨学金資金募金では3月末までに、卒業生および教職員の方々から以下のとおりご協力をいただきました。

2008年度協力者(ご芳名)

(2009年2月～3月申込分 順不同 敬称略)

【卒業生・ご父母・一般】

300,000円 株式会社バンネットシステム
30,000円 藤原東
29,000円 同志社45東京クラブ
代表幹事 香月宏三
25,000円 越野泰一
10,000円 茨木同志社クラブ
10,000円 富岡努
5,000円 仲田淳平
2,000円 河駕哲也

【ご芳名のみ】山田純一 小牧礼子

【匿名1人】36,071円

【教職員】1,000,000円 幸亀一夫

※教育研究施設等整備資金募金、プロジェクト・サポート募金のご芳名につきましては、別途芳名録を作成しご寄付いただいた方々にお送りしています。

これらの募金事業については、本年度以降も社会各界に対して継続的に呼びかけを行いますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(財務部資金課)

卒業生の新刊図書

小原 篤次さん(1985年法学部卒)

「政府系ファン」

巨大マナーの真実

日本経済新聞出版社

1900円(税別)

本学教職員の執筆図書の紹介

図書館調べ(価格は税別)

オバマ大統領 村田晃嗣 他 著 文藝春秋 710円
グローバル恐慌 浜崎宇 著 岩波書店 700円
ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか 森孝一 越後屋朗 中田孝一 手島典夫 小原克博 他 執筆 明石書店 4000円
臨床栄養管理学会論 市川寛 他 執筆 講談社 2600円
日本の伝統芸能講座 舞踏・演劇 山田和人 他 執筆 淡交社 3800円
公共政策のための政策評価手法 伊多波良雄 編著 中央経済社 3000円
学歴格差の経済学 橋本俊昭 他 著 勁草書房 2400円
学生と変える大学教育 園田勝博 他 執筆 ナカニシヤ出版 3200円
幸田露伴の世界 佐伯順子 他 執筆 思文閣出版 5000円
日系アメリカ人強制収容と緊急拘禁法 和泉昌澄 著 明石書店 5800円
ドイツ近現代ジェンダー史入門 川越修 他 編 青木書店 3500円
冷戦後日本のシビリアンコントロールの研究 武蔵勝宏 著 成文堂 6000円
医療心理学を学ぶ人のために 小西行郎 他 執筆 世界思想社 2400円
語彙の意味と文法 沈力 他 執筆 くろしお出版 5000円
占領下日本の学校図書館改革 中村百合子 著 慶応義塾大学出版会 5000円
ベイズ統計学とファイナンス 津田博史 他 執筆 朝倉書店 4200円
日本自動車企業の仕事・管理・労使関係 石田光男 他 執筆 中央経済社 3000円
ケースブック 京都モデル 北野昭彦 他 著 白桃書房 3000円
近代東アジアの経済倫理とその実践 沖田行司 他 執筆 日本経済評論社 3000円
転回点を求めて 遠藤徹 他 執筆 世界思想社 2500円
労働法 西村健一郎 他 著 有斐閣 2100円

希望への連鎖

人間関係で悩んでいる学生が多い。これは学校だけじゃなくて家庭や社会でもそう。世の中にはいろんな人々がいる。多種多様な価値観がそこにあつて当然である。自分の価値観と異なる人とは付き合わず、気の合う者同士で仕事をし、交流を深めていくのがとりあえずは良いだろう。しかし気の合う者同士の中でも、付き合いを深めていくと実は異なる価値観をお互い持つていることに気づくことがある。では、その人とはお付き合いをやめて別の人を探せばよい、ということにはならない。その人とはすでに関係があつて簡単にはそれを解消できないからだ。親が嫌いだからと言ってそう簡単には親との縁は切れない。夫や妻があるいは恋人が嫌いになったからと言ってそう簡単には別れることはできない。だからみんな悩むのである。衝動的に人との関係を絶つこともあるかもしれない。でも、同じような問題は必ずどこかで再び出てくるものだ。

ひとそれぞれの違いや嫌なところを人生というキャンバスに描かれるひと

つの「模様」として考えることはできないだろうか。自分の目にはいびつに映る模様があれば、素敵な模様もある。どっちが正しくてどっちが悪いではなく、両方が共存していることが大切である。一歩か二歩、距離をおいてそのキャンバスを眺めてみると、全体として一つの絵が出来上がって見えてくるときがある。好きになれない模様が実は自分の人生という絵には必要であることに気づくときがある。素敵な模様といびつな模様が共存することで思いもよらないメッセージを創出していることもある。もちろん、そのためには少々の忍耐は必要である。でも、どんな絵が今作られつつあるのか、どんな面白い絵が生まれてくるのか、と肯定的にそして樂觀的に現状を受け入れると、その忍耐は希望に変わるだろう。

2008年のノーベル賞に日本人が4人選ばれた。物理学賞と化学賞においてその功績が認められた。しかし受賞対象の業績は30、40年も前の研究であった。本当に価値のあるものはそれほどの

月日を経て初めて認められるのだろう。今までの常識、固定概念を疑うこと、それを覆すには突拍子もないことをする必要はない。コツコツと、根気強く一つ一つの壁を突き破り続けた結果として、新しいものが創出されるのだと思う。

昨今、目先だけの実績、数字だけを求める傾向が強い。不安な社会になればなるほど薬にもすがらる思いになるのは理解できる。しかしそればかりでは結局、つかんだものがあとで薬と分かつて手遅れということもある。前代未聞の世界金融危機が良い例ではないだろうか。おぼれないためには基本的な泳ぎ方をしっかりと学ぶのが先決であろう。

聖書に「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。希望はわたしたちを欺くことがあります」という言葉がある。苦難、忍耐、練達、希望。この連鎖は、人間関係においても、学問分野においても、そして経済活動においても真理だと私は思う。

Moriyoshi Murayama

村山 盛葦

神学部助教

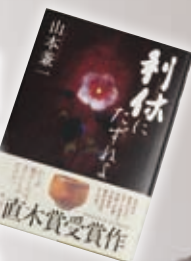
1965年エジプト生まれ。
1992年同志社大学大学院神学研究科博士前期課程修了後、約3年間牧師としてキリスト教会に従事。
カリフォルニア州バークレーの神学大学院連合(GTU)、ボストン大学大学院神学研究科博士課程で研鑽を積む。
2007年より現職。専門は新約聖書学。
最初期のキリスト教をギリシア・ローマ世界の文化的、社会的文脈から考察する。



インタビュー
遠藤 浩子さん
〔文学部美学芸術学科4年次生〕

作家

『利休にたずねよ』で第140回直木賞を受賞



山本兼一 さんに 聞く



遠藤 ●私も大学で茶道部に所属していましたが、千利休についてはある程度知識を持っていたつもりですが、今回利休にたずねよを読ませていただき、私の中の利休像とは違っているのに驚きました。

山本 ●今までの利休のイメージが納得できなかったものでこれを書いたのです。私は、利休がただ淡々と枯淡の境地でお茶を点てていたとはどうしても思えなかった。絶対音感という言葉がありますが、利休は美の本質をつかむ絶対的な美感、すなわち絶対美感を持っていたと思うのです。利休好みはどれをとっても調和が取れていて、万人が見て美しいと思うものはかりです。例えばそれは、弟子の古田織部などと比べるとよくわかる。織部はとても個性的です。二方利休は、決してあからさまに個性を出すことはしない。けれどその実、織部よりも大胆に個性を出しているのです。わかりやすい例が茶杓ちやくです。それまでの茶杓は節のないものが使われてきました。それを武野紹鷗そうおうはわざと節を下端近くに残した。洒落てはいますが、作為が感じられてかえって嫌みなのです。対して利休は、節を真ん中より少し上に持ってきた。これほど大胆なことはありません。

ん。そういう感覚の持ち主だったというのは凄いいことだと思います。

遠藤 ●どうして利休に焦点を当てようと思われたのですか。

山本 ●私は長編デビュー作が信長の鷹匠の話、それから信長に仕えた大工、砲術師、刀鍛冶など日本の職人たちの話を書いてきたのですが、それは今まで誰も書いていなかったことを書くかと思つたからです。もともと日本を書きたい、日本を作ってきた技術、美学を書きたいという気持ちがあつて、見渡すと千利休というとてもない巨人がいる。これまでに多くの人が利休を書いてきていますが、私たち小説家は、前に書かれたものと違う視点があれば書けるのです。違う利休像があれば書ける。よく利休について語られるのは死の謎についてなのですが、私は利休の死は謎でも何でもなくただ秀吉に嫌われたただだと思つています。それよりも利休の美学の源泉はいつたい何なのか、あれだけ物に執着してなお絶対美感を持つて己の世界を作り上げたそれが今なお日本人の美意識の根幹のようになっていないのはなぜなのか。そういう今までにない視点からなら、新しい利休像が書けると思つたのです。



山本 兼一さん
【1980年文学部文化学科
美学及芸術学専攻卒業】

1956年生まれ、京都市出身。出版社、編集プロダクション勤務、フリーランスのライターを経て作家になる。1999年『弾正の鷹』で「小説NON創刊150号記念短編時代小説賞」佳作。2002年『戦国秘録 白鷹伝』（祥伝社）でデビュー。2004年『火天の城』（文藝春秋）で第11回松本清張賞を受賞。2005年に同作で、2008年には『千両花嫁 とびきり屋見立て帖』（文藝春秋）で直木賞候補に。『火天の城』は映画化され、今秋公開の予定。

『利休にたずねよ』で第140回直木賞を受賞

作家

山本兼一さんに聞く



遠藤 ●『利休にたずねよ』というタイトルはどうして付けられたのですか。

山本 ●利休の周りを取り巻くいろいろな人たちがみな、実は利休に尋ねたいことがあったのではないかと、意味で付けたのです。例えば奥さんの宗恩と秀吉は、利休の緑釉の香合の秘密を知りたかった。そして奥さんの方はその秘密に気づいていて、「あなた、本当は好きな人がいたんじゃない」と聞きたかったのではないかとね。今までの歴史小説のタイトルではなくて、ミステリー風のものにしようという狙いもありました。死の謎についてはみんな知っているのを最後に持つてくると盛り上がりません。それよりも違う秘密があった方がいい。それが利休の恋だということにすると読者を引っ張りやすくなります。利休の美学の謎にも迫り着けます。歴史上の事実と想像で作ったフィクションをからませる秘訣は恋を持つてくることですね。恋は記録にありませんし、利休の恋なんて誰も書いていない。それだけで読みたくなるでしょう。だからテーマ

の設定の仕方がものすごく大事なのです。

遠藤 ●なるほど、そういうことだったのですね。ところで、山本さんは小さい頃から小説家になろうと思っておられたのですか。

山本 ●高校生くらいから詩を書き始めて、最初は詩人になりたいと思っていたのです。大学でも文学研究会に入って詩を書き、年に1冊ほど詩の雑誌を発行してそれに載せていました。

遠藤 ●大学で美学芸術学を選ばれた理由は、

山本 ●詩人になるかどうかは別にして、文章に関わる仕事をしたいと考えていたので、ものの見方、考え方の幅を広げたいと思ったのです。国文学や英文学だと文章ばかりになつてしまふような気がして、美術は好きでしたし、違う世界をちよつと経験しておきたいと思つて選びました。ゼミも日本美術史、世界美術史、現代美術史などがある中で、映画をやりたい、芝居をやりたいなどという学生が集まつたその他大勢のゼミにいました。卒業論文は、美術とは直接関係のない文芸学で書きましたね。

遠藤 ●大学卒業の際、就職はどうされたのですか。

山本 ●普通のサラリーマンにはなりたくなかつた。大学的时候は、文章を書いてそれが仕事にできればいいなと思つていました。最初から一般企業に就職する気がありませんでした。それから、就職登録もしなかつたし、就職説明会も行つていません。ただ親の手前があるので、1社、出版社を受けたのですが、落ちてしまつた。そのとき思つたのは、仮にどこかに就職

したとしてもどうせ短期間で辞めるだろうということ。それなら最初から勤めない方がいいと、アルバイトで100万円近く貯めて、国外へ旅行に出たのです。決めていたのはインドからパリを目指そうということだけで、インドのカルカッタまでの片道チケットだけを買つて、後は列車とバスでパリまで行こうと考えていました。インドで2カ月、ネパールで3カ月過ごし、4月に日本を出てパリに着いたときには冬でした。そうして10カ月後に帰つてきたら、留年していた友達も就職が決まつている。さすがに焦つて、友人が東京で就職してアパートに住んでいたの、居候をして仕事を探しているうち、新聞の求人欄で見つけた家具の業界誌を発行している小さな出版社に潜り込んだのです。

遠藤 ●それが文章を書く仕事の出発点というわけですね。

山本 ●ただ、そこでは1年も経つともう学ぶことはないと思つたので、編集プロダクションを創るという人に誘われて、その会社に移りました。法律入門の本、料理の本、ガイドブックなどの編集作業を出版社から請け負う仕事です。その頃には、最終目標を小説家に置いていたのですが、まだまだ遠いところにあると思つていましたから、まずは編集の仕事から自分で書く方にシフトしたいと思つて、30歳でフリーライターになりました。フリーといつてもきちんと仕事をすればちゃんとした収入になるし、家族も養えます。一流出版社はやはり原稿料もよかつたのですから。ところが30代前半はそれでよかつたのですが、後半になつてくると、これを10年続けると大

変だと思ふようになったのです。というのも毎月レギュラーが5本ほどあつて、2日に1回締め切りがある。これは40過ぎたらとてもじゃないができない、自分の名前で書けるようにもつていかなければいけないと思つたのです。フリーだと時間が自由になるので、時間が空いたら小説を書いて、文芸誌に投稿していたのですが、全く通らない状態が何年も続きました。そうしているうち、家族の事情もあつて京都の実家に帰つてきました。東京にいたと家賃だけで年間200万〜300万円かかつてしまふ。それを稼ぐのに費やす仕事の分が実家に帰れば浮いてくるので、その時間を小説に使おうと思つたのです。

遠藤 ●歴史小説を書くようになったのはいつ頃からですか。

山本 ●20代の頃は詩を書いていて、小説も純文学志向だったのですが、だんだんつまらなくなつてきた。そんなときに司馬遼太郎さんの本を読んですぐ面白く思つたのです。その頃は歴史の知識もあまりなくて、司馬遼太郎さんは何でこんなにいろんなことを知っているのだらうと思つていたのですが、後になつて、「そうか、これはフィクションなんだ」ということに気がついたのです。そして40歳の頃、シミュレーション小説もし信長が本能寺で殺されなかつたらどうなつていたかというようなことを想像して書く小説の仕事をするようになりました。そのときに歴史小説の調べ方の勘所のようなものを覚えたのです。歴史には基本文献があるので、そこから派生していろいろなことが調べられます。例えば斎藤道三のことはわ



からなくても、油座のことを調べれば道三の商売がどういう状況に置かれていたのかわかる。ここを調べたらこうということが書けるんだということがわかってきたのです。最初に賞をもらったのが1999年、42歳の時です。小さな雑誌の短編小説賞だったのですが、それが信長の鷹匠の話。出版社の人から「これは長編になりますから書き下ろしてください」と言われたのですが、その頃はまだ長編を書くといっても取材費が出るわけではありません。そこで、短編小説賞でもらった賞金を取材費に充てて、モンゴルまで鷹狩りの取材に行きました。そうやって取材していくと、だんだん自分の中でモチベーションが高まってきてリアリティのあるものが書けるようになるのです。鷹匠の話が2002年に本になりました。1冊本を出せば別の編集者に売り込みに行つて読んでもらうことができる。そうやって足場を作っているうちに、『火天の城』で松本清張賞をいただきました。

読むことが多いです。

山本 ●私も心理学の本は、ユング、フロイトを読みましたし、哲学ではサルトルも読みました。仏教の本も含めていろんな分野の本を読みましたね。高校、大学と文学サークルに入っていて、仲間への対抗意識もあったので、たくさん読みました。また映画、音楽など、学部友達と文学サークルの仲間たちがいろいろなことを教えてくれました。実際社会に出て、ライターとしての原稿の書き方は学びましたが、ものの見方、考え方のベースは大学時代までに作られたと思います。それがなかったら、きつと小説家にはなれていなかったでしょうね。

遠藤 ●私自身もそうですが、今の時代は自分が何をしたいか、何が好きなかわからない学生もたくさんいます。どうすればいいかアドバイスをいただけますか。

山本 ●ひとつアドバイスをするとすれば、「自分探し」というのはいい方がいいということですが、「自分探し」をするつもりで1年間旅行に出たのですが、「自分」なんて20歳くら

遠藤 ●山本さんの書かれた文章を読むと、表現力の豊かさに驚きます。どうやって身につけられたのですか。

山本 ●高校、大学生の頃に本をたくさん読んだことでしょうか。特に大学生の頃は授業に出なくとも本は何冊も読みました。笑。遠藤さんはどんな本を読みますか。

いときに探しても見つかりません。自分を形成する要素は経験ですから、20歳のときの自分が何かなんて言えない。だから自分を探そう。人を探した方がいい。恰好良い人を見つけて、その人の真似をする。ファッションとか外見が恰好良いというのではなくて、生き方が恰好良い人。そういう人を見つけて見習えばいいのです。若いときは自分にこだわらない方がいい。私が良かったと思うのは、30歳でフリーライターになってたくさんの人を取材したこと。例えば会社を創業して成功している人などは、やはりすごく働くし、魅力的ですね。パワーがあつて頭もいい。人が見えないことを見て、気づかないことに気がついていく。そういう人は素直に尊敬できました。自分のやりたいことやスタイルにこだわりがあるのは良いことだと思いますが、とりあえず一度は何でもかんでもやってみる事です。いきなり自分が望むところに行くことはできません

サイン色紙 プレゼント

ご希望の方はハガキかe-mailで、住所、氏名、学部(卒業生の方は出身学部と卒業年)、本誌の感想をご記入のうえ、7月31日(消印有効)までにご応募ください(山本さんのサイン色紙希望と明記のこと)。抽選でお一人の方にさしあげます。

※広報課の連絡先は裏表紙に記載

※収集した個人情報、色紙の送付ならびにアンケート内容の分析のみに使用



INTERVIEWER

遠藤 浩子さん

文学部美術芸術学科4年次生

1年次から茶道部に在籍。茶道は大学入学後から始めたが、稽古場主任として裏千家の流れをくむお点前を教える立場に。残りの大学生活は、「社会に出るための充電期間として充実した時間を過ごしたい」と語る。



長い目で見てゆっくり急がず 行く生き方に共感

すぐに小説家になろうとは思わずそのために必要な経験を積まれたことなど、私はどちらかというと急いでしまふところがあるので、とても参考になりました。今の時代は何を選んでも自由で選択肢がたくさんありますが、何かひとつ決めてやってみることが大事ということがよくわかりました。長い目でぼちぼち行けばいいという山本さんの言葉が心強かったです。私も急がずゆっくりと自分の道を歩んでいこうと思います。

から、長い目で見てぼちぼち少しずつやっていけばいい。私だって小説でようやく生計が立てられるようになったのはこの5年くらいのものでから。

遠藤 ●小説の書き方を含めて、大変参考になるお話が伺えました。本日はお忙しい中ありがとうございました。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

回り道をした1年。でも、だからこそ理想の職場に巡りあえた。



商学部を2002年に卒業し、その後1年間は公務員試験を受けるために専門学校へ通いながら勉強していました。ただ、最初から公務員志望だったわけではありません。経済活動に興味があつて商学部を選び、4年間学ぶうちに、企業を創業したり、新しいプロジェクトを立ち上げたりといった際にさまざまなドラマがあることを知りました。それらに自分自身が携わる、あるいはそうしたドラマにより多く出会ってそれを支援していく、そういった仕事に関心を持つようになりました。最初は一般企業を志望しましたが、就職活動がうまくいかなかったこともあり、経済活動を外側から支援する公務員へと志向を変えたのです。

社して仮に国際関係の仕事ができない場合はどうしますか」と聞かれたとき、形式的に答えて入社しても自分は納得できないと思ったので、「国際関係の仕事ができなければ御社に入る意味がない」というような答えを返していました。それではなかなか内定はいただけませんでした。次第に、自分の気持ちに嘘をついて結果を得るよりも、1年間時間をおいて納得した方向へ進みたいと考えたのです。回り道はしましたが、その1年は決して無駄ではなかったと思います。入局して6年、まだ国際関係の業務には就いていませんが、いろいろな部署を経験する中で学ぶことは非常に多く、充実した日々です。

公務員試験の1次試験に合格後、各省庁を回って面接を受けに行くのですが、経済系に絞ることは最初から決めていました。なかでも貿易や国際関係に関心があり、在学中に通関士の資格を取ったこともあって、当初は税関を希望していました。ただ経済産業局にも通商部という国際関係の部署がありますし、新事業の創出や地域経済の活性化を後押しすることができそうです。いろいろ考えた末、業務の範囲が広く、国際的な仕事を含めてさまざまな分野に関われる、そんな可能性の広さに魅かれて経済産業局を志望しました。

結婚して家庭を持ち、子どもが産まれてもずっとフルタイムで働いていきたい、そんな自分のライフプランに公務員という職種は最適でした。今所属している技術課は、企業の技術開発を支援するための委託費や補助金などを執行する部署ですが、若いから、女性だからという理由で発言が認められないとか軽んじられるということは全くありません。むしろ経験が乏しくても、ひとりの職員として自分の意見を求められるので、常に勉強し自分なりの考えを持つていなければなりません。私自身、今はまだ一職員として知識や経験が充分とは言えませんが、今後さまざまな経験を積み自分で自分のキャリアパスをつくり、「このことから井本さんに」と思ってもらえるような持ち味を持った職員になりたいと思っています。これからもスキルを磨き自分を高め、常に新しい仕事に前向きに取り組んでいきたいです。

P R O F I L E

井本 彩子さん 【2002年商学部卒業】

経済産業省 近畿経済産業局
地域経済部技術課
支援係長

2003年4月に入局後、情報政策課、総務課広報室と人事係、製造産業課を経て、1月から現在の部署に。広島県出身にも関わらず関西で就職したのは、京都、大阪、神戸と個性的な街に、ユニークで元気な企業がたくさんあるからと言う。出産を控え、今夏には産休に入る予定。局の女性職員は、子どもがいて忙しくても生き生きと働いています。むしろ時間的な制約があっても、仕事をしている方が充実した生活になるのではないのでしょうか」と出産後の仕事にも意欲を見せる。



「夢」だったパイロットに挑戦。 大切なのは失敗を恐れないこと。

幼稚園の頃のおぼろげな記憶の中に、空港の灯火を飛行機の窓から見て感動したことを覚えています。振り返ってみると、そのとき初めてパイロットに憧れを持ったのかもしれませんが、そして高校生のときにコックピットを見学する機会があり、パイロットの方と話してその人間性にも魅かれ、再びパイロットを夢見るようになりました。しかし実際にそれを自分の職業にするというのは夢の中の夢で、具体的な進路として描いていたのは、商社勤務だった父と同じよう



に海外で仕事をするからです。就職活動のときには商社を志望したのですが、挑戦するだけしてみようとパイロットの採用試験を受験することになりました。たとえ夢ではあっても、チャレンジしないまま後で後悔するのは嫌だったのです。

幸いなことに合格し、入社して約4年間の訓練を受けることになりました。羽田の訓練所での講義から始まり、その後米国カリフォルニアの訓練所で小型機を使った訓練に移ります。そこで事業用操縦士免許(単発機、多発機)、計器飛行証明の資格などを取得するのですが、資格試験とは別に進捗度を確認するフェーズチェックがあり、同じ試験を2回落としてしまうとそこで失格とされ、翌日には日本に帰らないといけない。そうになると、原則、退社するかありません。同期たちとお互いに励まし合い、大学時代のクラブ活動のようにチームワークで訓練を乗り越えましたね。現在のように実際に乗務するようになってからも、定期的な技能審査や航空身体検査をクリアしないと操縦士の資格を維持することは

できません。厳しいですが、多くの乗客の命を預かる仕事ですから当然と言えます。

私は基礎訓練を終えた後、ボーイング767という中型機の副操縦士として5年半乗務し、現在は大型のボーイング777の副操縦士としてヨーロッパ、北米、東南アジア、中国などの国際線、そして国内線に乗務しています。当面の目標は機長になることです。それが、それとは別に、ただ飛行機を操縦して安全に人や物を運ぶことだけではなく、ひとりの人間と

P R O F I L E

三宅 渉さん

【1995年経済学部卒業】

株式会社日本航空インターナショナル
運航本部 運航乗員室 777運航乗員部
副操縦士



商社勤務の父の海外駐在に伴い、小学校の途中までブラジルに4年、スペインで4年半暮らした。大学時代は4年間、ラグビー部に所属。現在も社内のラグビー部に籍を置きつつ、公認レフェリーとして高校生から社会人までの試合でホイッスルを吹く。「巨大な機体を目にする度に、それを自分の手で動かしているという感慨、数百人にもものぼる乗客の安全がこの手に委ねられているという責任感をひしひしと感じます」と精悍な顔を引き締める。

して大きく成長したいと思っています。そのため、チャレンジをこれからも続けていくつもりです。

仕事をするうえでも、学生の皆さんにとっても、大切なのは自分自身の目標に向かって逃げず諦めずにチャレンジすることではないでしょうか。仮に失敗したとしても、その失敗は後で必ず生きてきます。そもそも飛行機は、人間は失敗するものだという前提のもとで造られているのです。例えば、ランディングギアの握り部分は車輪の形をしています。フラップを動かすレバーはフラップの形をし、エンジンのパワーレバーはエンジンの形になっている。万一間違えて握っても、その瞬間に手の感触で気づくようになっていくのです。それはまさに先人たちの失敗を教訓として生かした結果。重要なのは、ミスを減らしつつ、失敗してもそれをいかにリカバーして次に生かしていくかです。それをいろいろな経験から導き出すためにも、失敗を恐れず何事にもチャレンジしてみること、広い世界を見てさまざまな価値観に触れることが大切ですね。

C E M E N T



FLAT bふらっとプログラム

ハローホール(多目的ホール)では、コンサートや映画上映など多彩な文化プログラムを行っています。ふらっと…ハローホールにお立ち寄りください。

【場所】ハローホール(多目的ホール) 【料金】無料

*内容・日時は都合により変更になる場合があります。

●6月2日(火)12:30～15:00～

映画上映「シムソンス」(2006年、113分)

監督:佐藤祐市 出演:加藤ローサ、藤井美菜、高橋真唯、星井七瀬 他

●6月9日(火)12:30～

ブラウンライブ「Jusqu'à Grand-Père (ジュスカ・グランペール)」

メンバー:高井博章(ギター)ひろせまこと(ヴァイオリン)

●7月7日(火)12:30～15:00～

映画上映「サマータイムマシン・ブルース」(2005年、107分)*日本語字幕あり

監督:本広克行 出演:瑛太、上野樹里 他

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL: 0774-65-7413



京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

「子ども」「大人」「学生」「高齢者」が入り交じる町家「でまち家」で、一緒に活動してみませんか。世代混合のサークル活動や議論の場が展開されています。異世代との交流を通して、より豊かな学生生活を送るお手伝いをします。

●町家サークル開催中!

子どもを交えた異世代混合のサークル活動を行っています。

サークル期間:5月12日(火)～7月17日(金)

7月25日(土)全サークル発表会

	時間/曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1	11:00～12:00	京都検定			
2	13:30～14:30	英語	書道	読書会	
3	16:30～17:30	邦楽	手話	茶道	アニメ作り (16:00～)

●井戸端会議に参加してみませんか!

携帯電話、地球温暖化、公共マナー、赤ちゃんポストなど、さまざまな社会問題について異世代の意見を聞きます。

6月24日(水)、7月22日(水)、8月26日(水)各日とも19:00～21:00

*都合により、日時は変更になることがあります。

●季節行事で京都の四季を感じよう!

6月5日(金)19:00～21:00 「ホテル観賞会」

・鴨川を歩いてホテル観賞を楽しみましょう。

7月上旬予定「浴衣着付け講座」

・お祭りの多い京都の夏を、浴衣で歩けるようになろう。

8月29日(土)10:00～16:00 「地藏盆」

・子どもが主役のお祭り。消しゴムはんこを作ったり、おやつを食べたり。

9月12日(土)10:00～12:00 「おはき作り」

・みんなでおはきを作って、お彼岸の風習を学びましょう。

*参加費無料。定員がありますので、お申し込み・お問い合わせはでまち家まで。

<学生スタッフ募集>

子どもと一緒に遊んだり、地域の人と季節行事を楽しんだり、京町家ならではの生活を体験し、町家プログラムに関わる全てについて、ともに企画・広報・運営に携わる学生スタッフを募集しています。

【お申し込み・お問い合わせ先】今出川校地学生支援課

でまち家:京都市上京区寺町通今出川下ル西側(今出川校地から東へ徒歩7分)

開室時間:火曜日～金曜日11:00～19:00 土曜日 9:00～12:00

TEL/FAX:075-211-5176 E-mail: ji-machi@mail.doshisha.ac.jp

ホームページ:http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/machiya_project/

ブログ:http://demachiya.kyo2.jp/

「寒梅館夏まつり～お兄さんお姉さんと遊ぼう～」 学生ボランティアスタッフ募集

寒梅館ホールや会議室、アトリウムを使って夏まつりを開催します。2006年にスタートした寒梅館夏まつりは、地域のイベントとして定着し、今年も子どもたちが楽しみにしています。クラブ・サークルの皆さんが日頃培っているスキルを生かして地域の小学生向けのイベントを企画してみませんか? 茶道体験、アナウンサー体験、模型展示など、この夏ボランティアスタッフとなって子どもたちと一緒に遊んでくれる団体を大募集します。

【開催日時】8月29日(土)13:00～16:00 【スタッフ募集対象】本学学部生

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL: 075-251-3270

同志社キャンパスフェスタ

講演や学生生活・就職関連の説明会および入試説明・相談会などを行います。

地域	日程	会場
仙台	10月3日(土)	仙台ホテル
東京	10月11日(日)	六本木アカデミーヒルズ49
名古屋	10月18日(日)	名古屋国際ホテル
岡山	10月24日(土)	山陽新聞社本社ビル・さん太ホール
京都	11月8日(日)	同志社大学今出川校地
熊本	11月15日(日)	熊本全日空ホテルニュースカイ

時間・プログラム等の詳細は決定次第、本学ホームページに掲載します。

【お問い合わせ先】校友・父母課 TEL:075-251-3009



WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【場所】寒梅館ハーディーホール 【料金】本学学生・教職員は無料

<cinema>

●6月11日(木)映画「旭山動物園物語」10:30～13:30～16:00～18:30～

監督:マキノ雅彦 出演:西田敏行、中村靖日、前田愛

●6月18日(木)映画&トーク「李郷監督「靖国」を語る」(仮題)

映画上映:李郷監督作品「2H」14:50～『靖国YASUKUNI』12:30～18:50～

トーク17:05～ ゲスト:李郷(映画監督)、松田正隆(劇作家)、宮岡秀行(映画作家/司会)

●6月25日(木)新作映画試写会(詳細未定)

●7月9日(木)映画上映(詳細未定)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

*内容は都合により変更になる場合があります。詳細はお問い合わせください。

秋学期は10月から再開します。



CLOVER THEATER クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心にさまざまなイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【料金】入場無料

●6月2日(火)17:00～(ジャンク・クロード・ルソー)

●6月9日(火)17:00～(特集:映画の授業4～幻のキネマ満映)

●6月16日(火)17:00～詳細未定

●6月23日(火)《ハリウッドの肖像4》

17:00～参考作品上映 18:45～講演:上島春彦(映画批評家)

●6月30日(火)17:00～詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

*内容は都合により変更になる場合があります。詳細はお問い合わせください。

秋学期は10月から再開します。

CLAP うたとお芝居のワークショップ終了公演/ 同志社コール・フリューゲル サマーコンサート 第3ステージ

●「注文の多い料理店」

学生支援課主催の「うたとお芝居のワークショップ」参加者によるコンサートです。

今年は、宮澤賢治作・萩原三子作曲の合唱劇「注文の多い料理店」を上演します。

ー西洋料理店「山猫軒」を訪れた紳士たちが扉を開けることに遭遇する奇妙な出来事ー

ワークショップメンバーが宮澤賢治の世界を瑞々しくのびやかに描きます。

同志社コール・フリューゲル サマーコンサート

【日時】7月4日(土)14:30開場 15:00開演

【場所】寒梅館ハーディーホール

【料金】500円(未就学児無料)

第1・2ステージは同志社コール・フリューゲルの単独ステージです。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 Tel:075-251-3270

同志社コール・フリューゲル 篠原 Tel:090-3656-3458

Doshisha Spirit Week 2009 Spring

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の建学の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Weekは、キリスト教主義教育や創立者新島襄について触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として、2003年から始まりました。期間中は、講演や展示などさまざまな企画を行います。

【期間】6月1日(月)～6日(土)

<京田辺校地>

●講演

6月1日(月)15:00～「アモスト館長 〇.ケーリ教授」

井上勝也 同志社大学名誉教授、
知真館2号館204番教室

6月3日(水)10:45～京田辺チャペル・アワー

「ヨブ記を通して見る、試練の意義(今を生きるに試練の意義を考える)」

龍城正明 文学部教授、知真館1号館111番教室

13:15～「同志社に学んだ留学生—新島精神は世界に伝わる—」

宇治郷毅 社会学部教授、知真館2号館101番教室

6月5日(金) 9:00～「ニューイングランド・ニュージャパン」

岸基史 経済学部准教授、知真館2号館202番教室

●応援団 演舞 —カレッジソング指導—

6月1日(月)12:30～多目的ホール前広場

●展示 新島襄とその弟子たち「早稲田と同志社」(図書館主催)

7月31日(金)まで 図書館開館時間中 ラーネット記念図書館2階展示コーナー

<今出川校地>

●講演

6月1日(月)10:45～「社会福祉のフロンティア『下民の友』新島襄」

本井康博 神学部教授、明德館21番教室

13:15～「山室軍平、若き日の言行」

葛井義憲 名古屋学院大学人間健康学部長、

明德館1番教室

6月2日(火)17:30～火曜チャペル・アワー「同志社のこころ」

佐伯順子 社会学部教授

クラーク・チャペル(クラーク記念館2階)

6月3日(水)10:45～水曜チャペル・アワー「新島襄と聖書」

小原克博 神学部教授

クラーク・チャペル(クラーク記念館2階)

6月4日(木)13:15～「1880年代前半の同志社英学校」

北垣宗治 同志社大学名誉教授、弘風館31番教室

●キャンパスめぐり隊—同志社再発見ツアー

6月6日(土)10:30～11:30 案内人:本井康博 神学部教授 良心碑前集合

●展示「同志社の表徴—エンブレムとデザイン」(同志社社史資料センター主催)

7月31日(金)まで 10:00～17:00 (土・日は16:00まで)

ハリス理化学館2階Neesima Room

【お問い合わせ先】京田辺校地キリスト教文化センター Tel:0774-65-7370

今出川校地キリスト教文化センター Tel:075-251-3320



障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

講義の空き時間を利用して、あなたもサポートスタッフのメンバーになりませんか。障がい学生支援室では、同じキャンパスで学ぶ障がい学生(Challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録して、パソコン通訳、ノートテイク、ビデオ字幕付け、車椅子介助などの活動にご協力下さい。講習会やchallengedキャンパス他各種イベント等、詳しくは障がい学生支援室HP (<http://www.doshisha.ac.jp/students/support2/shogai/>)で随時お知らせしています。

興味のある方は学生支援課まで。謝礼:880円(時間)

●支援活動の内容

聴覚障害: ノートテイク、パソコン通訳、ビデオ文字起こし、ビデオ字幕付けなど
視覚障害: ガイドヘルプ、代筆、代読、対面朗読、講義資料・試験問題の点訳、電子データ化など
肢体不自由: 代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

【お申し込み・お問い合わせ先】

京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:0774-65-7411

e-mail: jt-care@mail.doshisha.ac.jp

今出川校地学生支援課 障がい学生支援室 TEL:075-251-3273

e-mail: ji-care@mail.doshisha.ac.jp

♪観に行こう聴きに行こう♪—学生団体6月～9月の活動予定—

<京田辺キャンパスハローホール>(ホール広場前含む)

●6月5日(金)F.S.S「デモ演」	12:15～
●6月6日(土)One Voices「新入生ライブ」	時間未定
●6月10日(水)キリスト教文化センター「キャンパスコンサート」	12:15～
●6月11日(木)喜劇研究会「お笑いライブ」	12:30～
●6月11日(木)F.S.S「デモ演」	12:15～
●6月12日(金)とんがりぼうし「2回コンデモ演」	時間未定
●6月13日(土)ライラックレインボーズ「1回生発表会」	10:00～
●6月15日(月)SOUL2SOUL「春多目ステージ」	12:30～
●6月16日(火)SOUL2SOUL「春多目ステージ」	12:30～
●6月18日(木)軽音楽部「前期コンサートデモ演」	時間未定
●6月18日(木)プロレス同盟「プロレス興行」	12:30～
●6月19日(金)とんがりぼうし「2回コンデモ演」	時間未定
●6月20日(土)とんがりぼうし「2回コン」	時間未定
●6月23日(火)I.P.C「新歓ライブ」	時間未定
●6月24日(水)喜劇研究会「お笑いライブ」	13:30～
●6月24日(水)LOVE&FREE「デモ演」	時間未定
●6月26日(金)F.S.S「デモ演」	時間未定
●6月26日(金)F.B.I「映画上映会」	12:30～
●6月27日(土)F.S.S「音フェス」	11:00～
●6月29日(月)アンジェヌマン「ストリートダンス発表」	12:15～
●6月30日(火)The Amplugged「6月ライブ」	時間未定
●7月1日(水)The Amplugged「7月ライブ」	時間未定
●7月3日(金)F.A.C「デモ演」	時間未定
●7月4日(土)F.A.C「定期演奏会」	11:00～
●7月17日(金)喜劇研究会「お笑いライブ」	13:30～
●9月24日(木)ライラックレインボーズ「ラブフリ・F.A.Cジョイコン」	時間未定
●9月26日(土)社会福祉学科「映画上映会」	時間未定
●9月29日(火)軽音楽部「1,2回生コンサートデモ演」	時間未定
●9月30日(水)軽音楽部「1,2回生コンサート」	時間未定

<今出川キャンパス>

●6月13日(土)同志社ミステリ研究会「関西ミステリ連合春の総会 恒川光太郎・遠藤徹講演会」
13:00～(12:30) 1000円 教室未定

<寒梅館ハーディーホール>

●6月15日(月)応援団吹奏楽部「サマーコンサート」 18:00～(17:30) 無料
●6月21日(日)E.S.S「第36回新島杯争奪全日本学生英語弁論大会」 12:30～(12:00) 無料
●6月22日(月)軽音楽部「前期コンサート」 15:00～17:00(14:30) 無料

<栄光館>

●7月4日(土)学生混声合唱団C.C.D「フレッシュコンサート」 17:00～(16:30) 無料

<学外>

●6月3日(水)学生混声合唱団C.C.D「関西学生混声合唱連盟40周年記念定期演奏会」
17:30～(16:45) 1000円
兵庫県立芸術文化センター(阪急神戸線「西宮北口」駅下車、南へ徒歩2分)
●6月20日(土)交響楽団「第48回同立交歓演奏会」
18:00～(17:00) 1000円(全席当日指定)
京都コンサートホール(地下鉄烏丸線「北山」駅下車1番出口より南へ徒歩3分)
●6月20日(土)学生混声合唱団C.C.D「早稲田・同志社交歓演奏会」
17:00～(16:30) 無料
第一生命ホール(東京、都営地下鉄大江戸線「勝どき」駅下車A2a番出口より徒歩8分)
●6月21日(日)能楽部金剛会「金剛流学生能楽連盟自演会」
10:00～予定(9:30) 無料
金剛能楽堂(地下鉄烏丸線「今出川」駅下車6番出口より南へ徒歩5分)
●6月20・21日(土・日)書道部「青嵐展」
10:00～17:00(21日は16:00まで) 無料
建仁寺西来院(京阪電車「祇園四条」駅下車、徒歩7分)
●6月23日(火)～28日(日)クラマ画会「前期展」
11:00～18:00(28日は17:00まで) 無料
ギャリエヤマシタ2階(中京区寺町通り三条上ル天性寺前町537)
●9月12日(土)マンドリンクラブ「静岡演奏会」
18:00～(17:30) 一般1000円/高校生以下無料
静岡音楽館AOI(JR「静岡」駅下車、北口、静岡中央郵便局うえ7～9階)

挑戦する人

My Purpose



A 代表としてローマの世界水泳に出場

～夢はロンドン五輪の表彰台～

シンクロナイズドスイミングの場合、オリンピックや世界選手権に出場するのがA代表、その下にB代表があるのですが、私は昨年7月スイスオープンというB代表の大会でチームとコンビネーションの2種目に出場し優勝しました。A、Bの代表は選考会の成績によって選ばれるのですが、私は1月の選考会で5位になり、それからA代表に入ることができました。7月にイタリア・ローマで行われる世界選手権には、A代表のメンバーとしてチーム、コンビネーションの2種目に出場する予定です。

シンクロを始めたのは、小学校1年生のときでした。3歳上の姉が1年早くシンクロを始めていたのですが、ちょうど奥野史子選手たちが活躍していた時代で、それを見て私もやってみたいと思ったのがきっかけです。ただ、私は全く泳げませんでしたから、まず泳げるようになることが先決。競泳から始め、体をやわらかくするために体操やバレエも習いに行きました。学校が終わると、夕方5時から夜9時頃までほぼ毎日シンクロの練習があり、日曜日は体操やバレエの教室に行くという生活。練習も苦しいことが多くて、こたれそうになったこともありますが、同年代の人たちと一緒に練習しているの意識も高まっていきますし、他の人に負けたくないという気持ちもありましたから、ここまで頑張ることができたのだと思います。

高校は私立大学の付属校だったのでそのまま上の大学に進学するという選択肢も

あったのですが、スポーツだけでなく勉強も大事だと思っていたので、広い視野を持つためにも受験を経験し他の世界を見てみようと同じ社大学を受けました。同志社を選んだのは、京都にある伝統校で昔から憧れていたことと、やはり奥野選手の出身校ということが大きかったですね。大学では私以外にも、文武両道で勉強にもスポーツにも力を入れている人がたくさんいますし、スポーツ以外でもみんなそれぞれ自分の分野で頑張っている友達が多いので刺激を受けます。

摂取カロリーを維持しなければならない生活面などを含め、とてもハードなスポーツですが、何よりもシンクロが好きで、ひとりひとりの責任が大きい競技なのでやりがいもあります。それに、振付や音楽などの演技構成を自分で考えることもあるので、クリエイティブな面もあります。私にとっての到達点は2012年のロンドンオリンピックになると思います。もちろんメダルを獲得することが目標ですが、練習してきたことを全て出しきり最高の演技をして、見ている人に感動してもらえたらそれが最高の喜びです。

Profile



小林 祐加子さん
【経済学部4年次生】